

CHESS Magazine♔

#16

October 2024
japanchess.org

Interview

IM 南條遼介さん
(後編)

全日本女子チェス選手権2024
全日本シニアチェス選手権2024
他



チェスオリンピック2024

» BUDAPEST

現地レポート 坂井延寿

日本代表選手自戦記

IM 南條遼介・FM 山田弘平



Japan
Chess
Federation

FIDE Congress 2024 参加報告 真鍋浩

Tournament Report

03 チェスオリンピック 2024

[現地レポート] 坂井延寿

[日本代表選手自戦記] IM 南條遼介・FM 山田弘平

[FIDE Congress 2024 参加報告] 真鍋浩

20 全日本女子チェス選手権 2024 全日本シニアチェス選手権 2024

[女子優勝者自戦記] Bansi Prathima, Muthyala

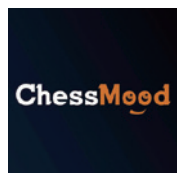
[シニア優勝者自戦記] 義之岳史

26 Chess Summer School 原島もも

Interview

15 IM 南條遼介さん (後編)

27 チェス大会inアメリカ NO.78-79 上杉賀子



Japan
Chess
Federation



Tournament Report 大会レポート

特集： チェスオリンピック2024





チェスオリンピード 2024現地レポート

坂井 延寿

坂井延寿（坂井あづみの夫）です。

今回は仕事の休暇を取り、オリンピードに参加する妻のあづみさんの付き添いで現地に来ることができました。大会中一番暇そうな私が現地のレポートを書くべし、という関係各所からの無言の圧力を感じ、こうして筆を取らせていただいております。

開催地：ブダペスト

大会開催地であるブダペストは、いかにもヨーロッパという美しい街並みが特徴のヨーロッパ屈指の観光都市です。ドナウの真珠と呼ばれるブダペストですが、ドナウ川を挟んで王宮のあるブダ地区と街の中心街があるペスト地区に分かれます。実はブダペストの街の発展は、この二つの地区をつなぐ、有名な鎖橋ができた19世紀半ば以降のことで、意外なほど歴史は浅いのです。オーストリアのハプスブルク帝国の支配から脱したハンガリー人が、ウィーンに負けない都市を作りたいという思い

でこの美しい街並みを作り上げたのです。

生活環境

日本チームが宿泊したパーク・イン・バイ・ラディソン・ブダペストはブダペストの中心地からやや北に離れた場所にあり、試合会場からもやや離れています。話によれば、オープンチームの前回順位に沿ってグレードの高いホテルや会場近くのホテルが優先的に割り当てられるそうです（それでも世界最強のカールセンは遅刻してきましたが、、、）。この配慮は当然だと思いますが、日本も実力をつけて配慮を受ける側になりたいですね。

とはいえ、ホテル自体は非常に快適で、近くにスーパーもあるため困ることはありませんでした。食事は3食ホテルで取ることができずし、量、質ともに充実した内容で、実のところスーパーがなくても困らなかったかもしれません。

選手の1日

ここからは大会中の選手の1日の流れを振り返ります。私は基本的にあづみさんと過ごしていたので、他の選手がどのように過ごし

ていたのか知りませんが、概ね同じような感じではないかと思います。

朝、我々は特に時差ぼけもなく、少し二度寝するぐらいで毎日問題なく起きることができていました。朝起きれば、まずは朝食です。食事の時間は各自に任されており、レストランに来て、チームメイトが居れば一緒に席で食事をするというスタイルでした。ただ、高安さんだけは窓際の席にこだわりの持っており、一人で食事をしていることがありました。それほどよい眺めではないのですがね。予想通りというか、朝食時は最もチームメイトの集まりがばらける食事でした。食事大好きな我々は基本的に朝食を欠かしませんが、朝食よりも睡眠を優先した選手もいたみたいです。

そのようなことを思い出していて、気づいたことがあります。朝食会場に行くと、先にTuさんが食事を取っていることがよくありました。そのような際、Tuさんはずーっとスマホを見ており、最初は何かお気に入りのモフモフ動画でも見ているのかと思っていましたが、冷静に考えるとずっと対戦相手の準備をしていたんですね（そりゃそうだ）。私の偏見かもしれませんが、Tuさんが朝早く起きて必死に対戦相手の準備をするというイメージは今までありませんでした。それだけ今回の大会に賭ける思いが強く、それがGMノーマの獲得に繋がったのだと思います。

朝食後から各自のプレパレーションが始まります。女子は10時から12時までを30分ずつ区切り、女

子コーチのマリアンと個別に準備します。トレーニングの順番は各ラウンドで変えており、日によっては今日は朝早いから大変だ（10時？朝早い？）と慌ただしく朝食を取る日もありました。プレパレーションの内容は主に序盤の準備で、相手が指すライン、指してきそうなラインにどう対応するか、中盤でのアイデアなどについてマリアンからレクチャーを受けます。朝のプレパレーションが終わると、昼食まではフリータイムです。部屋のベットでゴロゴロしながら、プレパレーションの内容を確認します。

午後から大会運営が用意した直行バスで会場に向かいます。私のような付き添い人もそのバスを利用することができ、会場までのアクセスは問題ありませんでした。会場は広い体育館のような場所で、2階席までは観戦者も入ることができました。ただ、正直遠くから選手を眺めるだけになってしまうので、会場まで行ったのは全日程の半分くらいでした。休み番の選手も会場まで行くかどうかはまちまちで、観光に行くこともあつ

たようです。ある日には、遠征経験などで土地勘のある山田さんが、三津山さん親子を観光に連れ出していました。山田さんは大会を通じてこのようなサポート役を数多くこなし、個性的なメンバーのまとめ役を担っていました。

試合終了は各選手でまちまちですが、夜8時ごろにはホテルに戻り、夕食をとります。夕食後には次の日のチームメンバーを決め、その後その日のゲームの振り返りを行います。振り返りは遅くまで続き、あづみさんは毎日10時から11時ぐらいに部屋に戻ってきて、就寝していました。

大会経過

日本チームの戦績や試合経過については別の場所で触れられていると思うので、ここでは詳細なお話は避けます。

チェスの大会では、スイス式という組み合わせ方式の特徴上、大会前半はどうしても力の差がある相手との組み合わせが続きます。格上を倒すのは難しいですし、格下に勝ち続けるのも簡単ではありません。私もトーナメントプレーヤー

だからわかるのですが、この大会前半を辛抱して、実力が競った相手と当たり始める終盤でよいパフォーマンスを見せることが大会全体のパフォーマンスを決めます。そういう意味で、今大会の日本代表はそのようなパフォーマンスができたのではないのでしょうか。とはいえ、順調に進んでいたわけではありません。オープンチームは前半戦からTuさんがGMを倒すなど好調でしたが、他のメンバーは格上からはなかなかポイントを取ることができず、チームとしての調子はどうか計りかねました。女子代表に関して言えば、6Rの格下レバノン戦での敗戦が最も痛く、あづみさん個人もこの敗戦を挟んで3連敗を喫して、レストデイ前後はメンタル的にもきつそうでした。

では、なぜ後半戦での好調なパフォーマンスが生まれたのかと問われれば、正直私にはよくわかりません。レストデイの過ごし方を含めて、何かがよい作用をもたらしたのかもしれませんが、いずれにしろ、あの日本チェス史に残る9Rが訪れたのです。

会場全体の様子



皆さんもご存知かと思いますが、9Rに日本チームに二つの歴史的な快挙が生まれました。オープンチームのTuさんが日本籍のプレーヤーとして二人目のGMノームを達成、そしてあづみさんが日本人女性で初めてGMに勝利しました。9Rの対戦相手のスコットランドは国としては強豪国というわけではありませんが、あづみさんが対戦する1番ボードにGMを擁していました。彼女にとっては初めてのGM戦で、少し記念受験のような気持ちでいるかもしれないと心配になり、その日の朝に”Today, you will be the first Japanese woman to beat a grandmaster!”と（なぜか英語で）声を掛けて送り出しました。まさか本当に勝って戻ってくるとは思いませんでした、GMと言っても2200台の相手であれば十分に勝負になると思っていました。



坂井あづみ選手

そして、ホテルに戻ると感動的な光景が待っていました。女子代表の柴田さんが目に涙を浮かべてあづみさんをハグで出迎えます。それを見た木下さんももらい泣きしたみたいです。柴田さんはこの20年、日本女子代表が代表の人数を揃えるだけでも大変な時期を見てきており、特に込み上げるものがあったのだと思います。と、言っても私は部屋で配信していたため、この場面は見てないんですけどね。YouTubeに動画が上がっているので、ぜひ確認してみてください。

(<https://www.youtube.com/watch?v=dk2L-Kylr5E>)

一方で、TuさんのGMノームに関しては比較的落ち着いた対応だった気がします。Tuさんは大会初日から好調なパフォーマンスを続けており、ノームは取れるだろうと思われていたのかもしれませんが。しかし、その日の夕食、やたらとテンションの高い男が一人、青嶋さんです。



Tran Thanh Tu選手



Team Japanメンバー

「Tuさん、試合中にドローオフアされたらどうするつもりだったんですか？」

と聞く青嶋さんに（おそらく疲労困憊の）Tuさんはあいまいに答えるだけでしたが、

「そうですね、Tuさんなら最後までやりますよね」と、さらに力強くたたみかける青嶋さん。

（注：Tuさんは9RでドローでもGMノーム確定でした。）

普段物静かな青嶋さんですが、時としてこのようにスイッチが入るときがあります。皆さんが知らない一面ではないでしょうか。

9Rの快挙に刺激を受けたのか、次の10Rでは、オープンチームがGM四人のアイスランドチームを破りました。Tuさんに加えて南條さん、小島さんもGMを破り、ここに来てようやく「史上最強チーム」の実力を見せてくれました。

一方で、実のところ我々のオリンピックアードは9Rで終了していました。あづみさんの仕事の関係で日本に帰らねばならなかったからです。このため、当初は代表辞退も考えましたが、結果的に参加を決めてよかったと思っています。何より、忙しいスケジュールのなか

で参加して、結果を出したあづみさんはとても偉かったと思います。皆さんも褒めてあげてください。

終わりに

最後に、このような貴重な機会を与えてくれたあづみさんと、休暇取得を快く許してくれた会社の皆さんにお礼を述べて私のレポートを締めようと思います。

あ、最後にこれだけは言わせてください。

坂井家、GMに勝ってますから。



代表選手自戦記
IM 南條遼介

GM Kjartansson, Gudmundur (2478)

IM Nanjo, Ryosuke (2372)

45th FIDE Chess Olympiad

Budapest 2024 (10)

English, Symmetrical A34

1.c4

データベース上で私の黒番の試合を統計すると1.c4は他の頻出初手に大差をつけて白の勝率が高いです。国内戦で困ったことはなく苦手意識もない一方、対戦相手を研究して指す定跡を変えるGMレベルの手合いに現状の対策では心もとないことは否定できませんでした。そのため、1.c4対策はオリンピックアードに向けて仕上げる必要のある最重要課題でした。

1...c5

30年以上のチェス歴でSymmetrical Englishを指すのは今年が初めてでした。セオリー上は1...e5に次ぐ評価ですが、1.Nf3や1.b3からも無理なく合流できレパートリーをまとめやすい利点もあります。

2.Nf3 Nf6 3.Nc3 Nc6 4.e3

近年GM界隈で流行の一手。4.g3は手順前後ですが6Rのキューバ戦に合流し、そこで十分な準備を見ているため相手は避けたようです。

4...e5

4...e6 5.d4 d5は1.d4定跡のSemi-Tarraschに、4...g6 5.d4 cxd4 6.exd4 d5は1.e4定跡のCaro-Kannに合流するため、白には幅広い知識が必要ですが、一方で黒も自然な手をむやみに指せません。

5.d4

5.Be2 d5 6.cxd5 Nxd5 7.Bb5で白黒入れ替えてのSicilian Taimanovに合流することもでき、私が白番で指さなければ狙い目でした。

5...e4 6.Ne5

6.d5 exf3 7.dxc6も難解な試合になります。

6...g6 7.Be2

7.g4がMamedyarov愛用のラインで黒にとって最も対処が難しいです。

7...Bg7 8.0-0 0-0



9.h3?!

白の突出したナイトと黒のちぐはぐなセンターポーンが形勢判断を難しくしている局面です。

9.b3?!が最もよく指される手ですが9...Ne7! ㊦としてe5のナイトをd7-d6でトラップする狙いが強い

す(10.dxc5? Ne8 →)。このラインと比較すると本譜の手はg4にナイトの逃げ道を作りa1-h8の筋を弱めない狙いだとわかります。

9.Nxc6?! dxc6 10.dxc5で白ナイトの問題を処理するのの一見良さそうですが同時に黒のセンターポーンの問題も解消してしまい、10...Qa5 ㊦でe4に強いポーンが残る分黒良しになります。

難しい判断ですが9.Rb1でクイーンサイドのカウンタープレイを用意し9...Qe7 10.b3=とポーンを捨てるのが最善でした。

9...Re8 10.Nxc6?

白はe5のナイトにかけられたプレッシャーに耐え切れずセンターを清算しましたが、やはり黒のバックワードdポーンを解消しd5のアウトポストを潰してしまうのは黒に利があります。

10.b3 ㊦とポーンを捨てるのが局面の要求に応える一手でした。

10...dxc6 11.dxc5 Nd7!

Nxc5、Bxc3、Qh4 (g5) の狙いを作りながらクイーン交換を防ぐ強力な一手。特にBxc3で白のポーンストラクチャーを崩されてしまうと白のc1ビショップを利かせる方法がなくなるため白の選択肢は大幅に制限されます。

12.Qc2

e4のポーンに抑え込まれ白駒全体の利が悪いです。

12.Qd6からキングサイドの防御にクイーンを回す目論見は12...Be5 →で止められます。

12.Na4でc5のポーンを守ること
も可能ですが、守り駒がさらにク
イーンサイドに移動したのを見て
12...Qg5 → 等からのキングサイド
アタックが厳しいです。

12...Nxc5

ポーンを取り返しながらかe4を補
強し、c8ビショップの利き筋を開
きながらさらにd3の飛び込みを狙
います。

13.b4

他の手では黒に間違える余地を
与えることができません。



13...Nd3!

e4とd3は利きがギリギリ足りて
いるもののタクティクスで崩れて
もおかしくない形なので、読みと
勇気が問われます。

14.Rb1

b4を守りながらg7ビショップの
利き筋から外れることによって
Nxe4を用意します。

14.Nxe4には14...Nxf2 15.Rxf2
Bxa1→がわかりやすいです。ま
た、14.Bxd3 exd3 15.Qd2 a5 → は
d3のパスポーンが強すぎるうえに
クイーンサイドの防備が間に合い
ません。



プレパレーション中の様子 (左=南條選手)

14...Qh4!

d3の守りが減りますがタクティ
クスが黒の味方をします。白はス
ペース不足で守りの補強が遅く、
次のBxh3が受かりません。

15.Bd2

最後の駒を展開しNxc1を避ける
ことで再びNxe4を用意しますが、
すでに手遅れです。

黒クイーンがe4に利くようにな
ったので15.Nxe4には15...Nxc1 →
が可能になります。

15.Bxd3 exd3 16.Qxd3 Be6 17.e4
Rad8→は黒がポーンを取り返した
うえすべての駒の働きがよく、dフ
ァイルからすぐに侵入できるため
勝負ありです。



15...Bxh3 16.gxh3 Qxh3

黒はビショップを捨てましたが
白キングの正面がガラ空きにな
り、黒の増援が白のそれよりも明
らかに速く到着するため黒勝勢で
す。マテリアルも2ポーン分代償が
手に入り、実戦的にも簡単な判断
です。

17.Nxe4

白が守り駒をキングに回すため
にはe4/Nd3の塊を破壊しないとい
けません。

15...Bxh3の時点で17.f4 Rad8
18.Nxe4 Rxe4 19.Bxd3 Rxe3 20.Bxe3
Qxe3+ 21.Kh1 Rxd3 → が最低でもあ
ると読んでいました。より強い
17...g5!からRe6-h6のアイデアを試
合中に見つけれられたかどうかはわ
かりません。

17...Rxe4

Rh4からhファイルでの決着を狙
います。

18.f4 Qg3+

18...Rxe3 19.Bxe3 Qxe3+ 20.Kh2
Nxf4 21.Rxf4 Qxf4+ → で3ポーンアッ



ブが最低保証されていると読んでいたので、1分でも自分の持ち時間を増やすためにまず1度局面を繰り返しました。

19.Kh1 Qh3+ 20.Kg1 Qg3+

2度目のこの局面で20...Rxf4 21.exf4 Bd4+がメイトになることを見つけ、それを足がかりに詰め切れることを読み切れました。Be1で白が守る可能性を断つためにまず一度チェックするのがより正確です。

21.Kh1



21...Rxf4!

Rh4#が強力です。

22.Rxf4

22.exf4 Qh3+ 23.Kg1 Bd4+はメイトです。

22...Nxf4

今度はQg2#が狙いです。

23.Bf1

23.Qe4 Qh4+ 24.Kg1 Nxe2+はクイーンが落ちます。

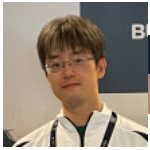
23.exf4 Qh3+ 24.Kg1 Bd4+は変わらずメイトです。



23...Ne2! 0-1

24.Bxe2 Be5はQh2#が止まりません。

ここで受けなしを悟り、相手のGMはリザインしました。全体的に手の構築がちぐはぐな大会でしたが、うまく噛み合う試合も指せたのは不幸中の幸いでした。



代表選手自戦記
FM 山田弘平

「史上最強チーム」 のリザーバーとして

2年に1度開催されるチェス界最大の祭典、チェスオリンピックは、私が最も好きな大会であり、10代の頃から今に至るまでずっとチェスに情熱を注いでいる理由の一つとも言える大会です。チェスの強豪国からあまり名を知られていない小さな国までが、同じ会場に集まり同じルールで順位を競い、そのなかの一人として自分が国を背負ってプレーすることには、いつも特別な感情を抱いています。

今回、編集長からは「自戦記」を頼まれていたような気がします。ですが、なるべく文章に残しておきたいことなので、私はゲーム解説ではなく、リザーバーとしてこのオリンピックとどう向き合ったかを書いてみようと思います。

ここ10年ほど、私のチェスのテーマの一つは、オリンピックで日本の順位をどう上げるか、だったと言ってよいでしょう。初出場だった2010年は個人もチームも苦戦を強いられ96位。選手としての力不足を痛感した訳ですが、この苦い経験を糧に積んだトレーニングが結果につながったのが2016年の68位、2018年の58位という好結

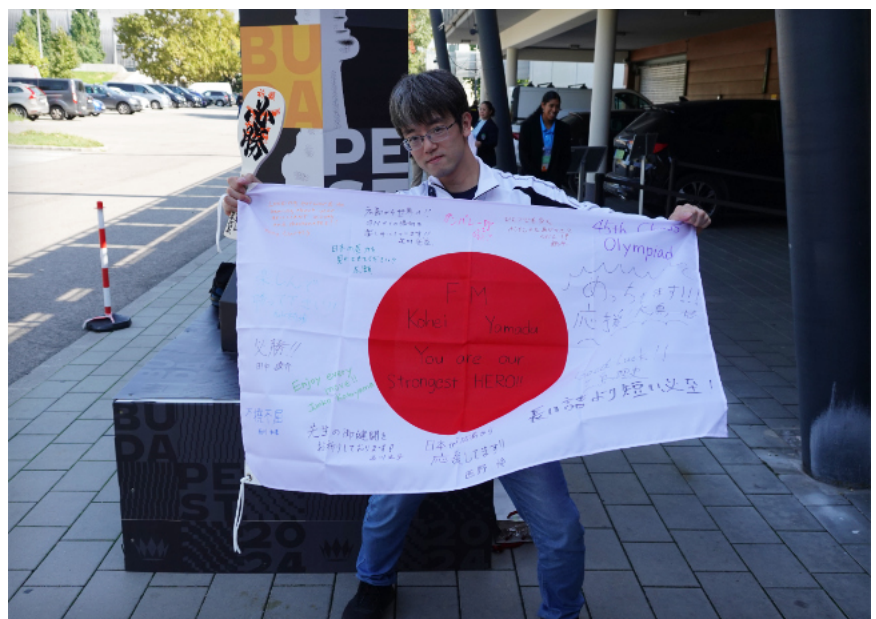
果でした。私自身の実力が上がったことはもちろん、他の日本のプレーヤーも強くなり、2300-2500レベルのプレーヤーを擁する国にも臆することなく向かっていけるようになったと思います。

今回、オープンチームが意識したのはやはり2018年のバツミオリンピックで記録した58位という順位でした。カテゴリCでの優勝もあり得たこの結果を上回ることが、「史上最強チーム」に課せられた使命だったと言えるでしょう。最終的にはチームポイント13、40-50位台が目標として掲げられました。

このチームはこれまでと異なり、日本のレーティング上位4名全員が代表入りし、私が5番手を務めるというチーム構成です。私のブダペストオリンピックはまず、このチームのなかで自分の役割を考えるとところからスタートしました。

今回のチームメイト4名は、間違いなく日本史上最強のメンバーと呼べるでしょう。全員が1番ボードを務める能力を持ち、GMからの勝利も期待できる頼もしいメンバーたちです。そうすると5番手、リザーバーである私の役割は、この4名をいかによい状態でプレーさせるか、ではないかと考えました。

これまでのオリンピックでは、私自身の実力UPが最もチームに貢献できる道だったわけですが、一方で「チーム作り」という観点から見るとまだまだできたことがあったなあと思うこともありました。そういった背景もあり、また選手団のなかではどちらかというと年長者でもあることから、今回のオリンピックではプレー以外のことでもチームに貢献してみよう考えるようになりました。



せとうちチェスクラブからの国旗（寄せ書き入り）を手にする山田選手

特に気を配ったことは、現地入りしてからチームの雰囲気作りです。オープン、女子ともに楽しい雰囲気でプレーできることが一番なので、なるべく全員と会話をしながら、よい結果を喜び励まし合う雰囲気を作りたいと考えていました。日本で応援してくれていた皆様にも、大会中にYouTubeで公開されたvlogを通して、チームのよい雰囲気を知ってもらえたかと思います。

プレーヤーとしては、自分が指さない日もプレパレーションに参加し、意見を出したり知識の共有などを行いました。特に英語が得意でない青嶋くんの準備をサポートするのは、現地での私の大きな仕事のひとつだったと言えるでしょう（笑）。

そしてもう一つ、以前のオリンピックと違った戦略をとったのは、毎日の出場メンバー決めです。私は、他の4名のメンバーがよ

り多く出場することがベストの選択であり、最終的な順位につながると考えていました。そこで、オープンチームの出場メンバーは、私が提案した案をミーシャや他メンバーと検討するという形で進む日が多かったです。

例えば5ラウンドのグアテマラ戦は、本来私が出ても勝てるはずのラウンドだったため、普通にやるなら私が出るべきラウンドでした。しかし、その時点で調子が上がっていないように見えた南條くん、青嶋くんによい内容で勝って勢いをつけてもらいたいと、この日はフルメンバーでの戦いを提案しました。

後半戦は順位争いが激しくなるため、私の出番が前半で終わる可能性も最初から考えていました。その意味でも、ラストゲームになるかもしれない7Rを何とか勝ちきれたときはほっとしました。

10Rはミーシャが最も悩んでいた

ラウンドの一つでしたが、私から抜ける提案をしました。IMノームのかかった青嶋くんに白を持たせるためには、小島くんか私が抜けるしかなかったためです。私の目から見て小島くんの調子は悪くなく、このラウンドで抜ける理由が見当たりませんでした。結果、残念ながら青嶋くんは勝てなかったものの、アイスランドに3-1勝ちという歴史的勝利に繋がりました。

ノームが関係なくなった11Rは、私が出場するチャンスではありませんでした。例えば、青嶋くんの代わりに私が入る選択も十分あり得たと思います。ですが、チームの目標のためには格上相手にドロー以上が必須だったため、最終的には私が抜けて、ベストメンバーで望む決断をしたのでした。

近年のオリンピックで、日本代表がこれほどかたよった戦略を取ったことはありません。せっかく出場する以上、1試合でも多く指したいと思うのはプレーヤーの性ですし、そう思うようでなければ代表選手は務まらないと思います。

ですが、今後日本がより高い順位を目指していくに当たり、こういう戦い方もあるのだという前例を作れたのは、意味のあることだと考えています。もちろん、均等に強い5人が揃うことが一番ですが、そうでない場合は必要に応じてチームファーストの戦略を取ることも、代表選手としての重要な仕事だと思います。



試合後の検討の様子

もちろん、常にこの戦略がベストであるとは限りません。同じメンバーでもう一度やれと言われたら、私も同じようにするとは限らないでしょう。とはいえ、格下相手のマッチにはすべて完勝し（これも実は珍しいことです！）、全員GMのアイスランドにも勝利したことを考えれば、一定の成果は出たと言えるのではないのでしょうか。

今後は、事前にチームとしての作戦を練ることが当たり前になると、よりチームとしての完成度が高くなっていくのではないかと思います。

最後に…。

試合会場に入る選手には「Player」と書かれた緑色のカードが配られます。最終ラウンドの後、ミーシャは記念になるからとこのカードを4枚、もらってくれました。このカードは4人のチームメイトに配られたのですが、私にはミーシャとチームメイトから、ミーシャがつけていた水色の「Captain」カードが贈られました。このカードが、リザーバーへの評価として、私の手元に残っています。

このカードをもらえたことで、私個人は今回の自分の働きには満足しています。チームに貢献するには、いろいろな形があるということの一つ実績として示せたと思います。



水色の「Captain」カード

一方でチームとしては、6勝5敗の69位と目標には届きませんでした。ある意味当然のように60位台にいたのは日本がレベルアップしたことの証ではありますが、このメンバーで過去最高順位を更新できなかったことには正直悔しさがあります。

次回オリンピックの日本チームには、また今回を超える「史上最強チーム」で、史上最高順位の更新を狙ってほしいと思います。私がそのチームの一員になればプレイヤーとして頑張るつもりですが、そうでなくともまた別の形でチームに貢献したいと考えています。

今回、クラウドファンディングを通して日本チームをご支援頂いた皆様には、改めてこの場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。たくさんのご声援を頂いたことは、我々のモチベーションに繋がりました。応援も日本チームに貢献する一つの形といえるでしょう。

日本チームが強くなるには、日本チェス界が盛り上がり、強いプレイヤーがたくさん出てくることが不可欠です。また次のオリンピックでお祭り騒ぎができるよう、2年間日本のチェス界全体で成長していければと思います。



General Assembly



FIDE Congress 2024 参加報告

日本チェス連盟
代表 真鍋 浩

オリンピックと並行して年次総会「FIDE Congress」が開催されました。この会議に私が出席するのは、2年前のチェンナイ、昨年のオンライン開催に次いで、今回で3回目です。日程はオリンピックの後半、9月17日から22日までの6日間。ブダペスト市内、ドナウ川にかかる観光名所「鎖橋」にほど近いインターコンチネンタルホテルが会場でした。

最初の4日間は、各地域の総会や各種委員会が順に開催され、私はアジアの総会と3つの委員会に出席しました。Chess in Education Commissionは学校教育へのチェスの導入を目的とする委員会で、各国の事例紹介は今後日本で取組む際の参考になることも多くありました。Planning and Development Commissionは、日本も助成を受けているFIDE Development Fundという制度を所管しており、多くの国が出席していました。

最後の2日間は、各国代表が一堂に会する総会「General Assembly」、年間の報告や委員の選挙等が行われました。会議はDvorkovich会長の報告や、トレジャラーのZhu Chen（元世界女子チャンピオン）の財務報告などで始まり、その後、改選が行われる委員会の委員長や委員の選挙、主要な議題の賛否を問う投票が順番に実施されましたが、ロシアに対する制裁緩和の是非など、多くの議論が交わされる会議でした。

会期中の19日の夜には、FIDE100周年の表彰パーティーが開催されました。選手だけではなく、アービター、トレーナー、レポーター、写真家など多様な表彰がありました。女性初のGMのNona Gaprindashviliが隣のテーブルに座っていたり、SusanとJudit Polgar姉妹が揃って表彰されたり、元女子チャンピオンXie Jun、Magnus Carlsenなど、伝説のプレーヤーが次々と登壇する豪華な式典でした。

FIDEの幹部や各国代表との交流も深めることができ、代表チームへの帯同も含め、密度の濃い2週間でした。



Planning and Development Commission



表彰されるGM Judit Polgar



大雨で増水したドナウ川と観光名所「鎖橋」

Interview

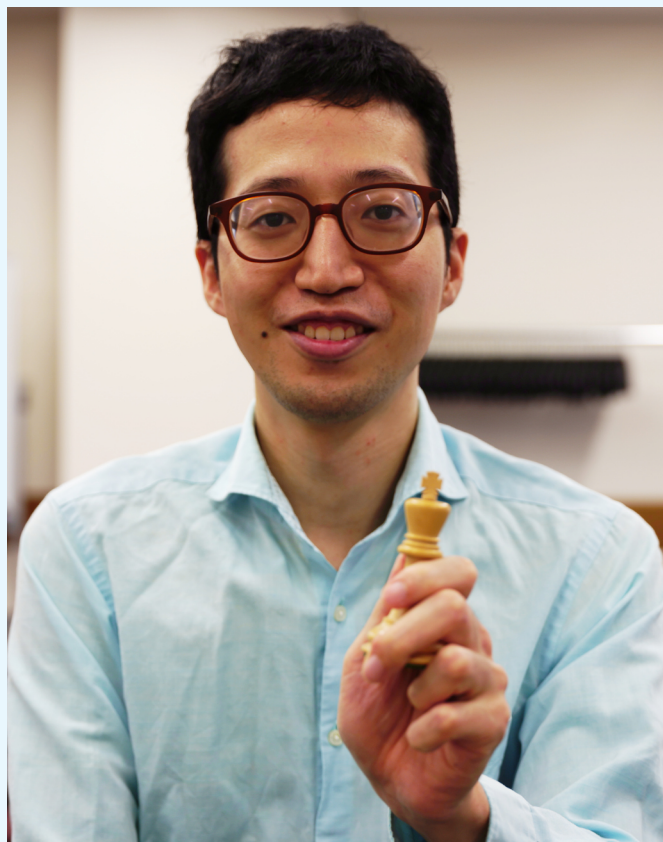
インタビュー 後編

南條 遼介さん

自分の武器を活かせることが 一番強くなる近道

なんじょう・りょうすけ

1988年生まれ、ニューヨーク出身。アメリカでの幼少時代にチェスを始める。2001年に入学した麻布学園のチェスサークルで瞬く間に力をつけ、2002年にはチェスオリンピックに出場。ジャパンチェスクラシック2019優勝、ジャパンリーグ（現クラシック）優勝4回、ジャパンオープン優勝10回、そして昨年に引き続き今年の全日本選手権で優勝し（通算5回目）、日本チェス界史上なんと18年ぶりとなるタイトル防衛・連覇を達成した。



後編では南條さんのチェスへの向き合い方や上達の歴史について聞いてみた（インタビューを実施したのは2024年5月末）。

普段はどのようなことを意識してチェスに取り組まれていますか？

全日本選手権やフランスのCappelle la Grandeで試合をしましたが、そういった試合や経験から自分の反省点や穴を洗い直して、それを潰していくというのがメインですかね。基本的に、今は実力の維持をメインに考えています。たぶんそこまで新しいことを足さなくていいというか。もちろん欠点とかはあるので、そこは足していったり磨き上げたりするのはあるんですけど、基本的に

は維持だけで今は十分じゃないかなって思っています。

そういう意味では特殊かもしれないですね。まあ、読みとかもそうですし、あとは年齢も年齢なので。勝手に実力が伸びていくような時期はとっくに過ぎているので、そこらへんはしっかりどう取り組むかっていうのを考えた上で、維持、まあ微増くらいを狙ってもいいかもしれないですけど、それだけで今はいいかなってというのは思っています。

全日本選手権の話でも少し触れましたが、やはり全体のレベルとしては上がってくるわけですが、それでも維持で十分ということですか？

まあ、日本でいうところのトッ

プをどのくらい維持できるものなのか…。一つは単純にTuさんも青嶋くんも、もちろんそれ以外も基本的には自分よりも若い人ばかりになってきちゃってるんで。本当に同い年なのは山田くん和小嶋くんくらいですかね。

まあ、そうこう言いつつ青嶋くんもチェス歴が短いといいつつも10年ぐらいになってるので、早いものですね。

今も伸びているTuさんやら青嶋くんやらに食らいついているというか、まだトップを張り合っている理由の一つは、プレースタイルでしょうか。今までやってきた努力の仕方ですかね。特に山田くんとか小嶋くんとか、あとは少し上だと馬場さんとかかもそうですか



ね。結構私たちの世代になるとカスパロフがオープニングが得意で、クラムニックもそれ以上に得意で。彼がカスパロフをチャンピオンマッチで破ったといったのにも現れるように、オープニングをすごく重視してるという時代というか。それがさらに加速して今に至るような感じもするんですけど。

やっぱりどうしても若いうちはオープニングを勉強して、それがまあすぐ手に繋がるし、レーティングに繋がるからといった感じでオープニングをやっている人達が多かった中で、私だけがミドルゲームやエンドゲーム中心にやっていて。すぐに実力向上に繋がるような感じのところあまり飛びつかなかったんですよ。

オープニングやカリキュレーションといった、なんというかすぐに棋力向上に繋がって、尚且つ特

に若いプレイヤーがすぐに打ち込めてすぐに結果を出せるようなところですかね。私が取り組んだのはそれ以外のところで、穴になりがちな部分ですかね。チェスを始めたばかりのうちだとやっぱりポジショナルプレーっていうのは苦手としている人は多いと思いますし、ストラテジーとはなんぞっていう感じになるとそこからさらに一歩踏み込まないといけませんし。

エンドゲームも何か覚えることが多いような気もするし、そもそも何やってればいいのかわからないといった感じで、結構。尚且つオープニングと違って必ずしも自分の勉強したところが集中して出てくるわけではない。

あと、アタックとかディフェンスとかにしても駒捨ててアタックはするけれどうまくいなくてそれで負けちゃったりみたいな感じで。色々としたチェスの要素はあ

るんですけど、そういったとっつきにくいところを結構若いうちに勉強していました。

自分で能動的に勉強するところっていうのはそういう部分を中心にしていたって感じです。そして、こういう部分はあまり更新されにくいんですよね。それが今にずっと繋がっています。

オープニングが流行りやどんどん改良されていって、あるいは情報爆発で今ではもう誰でもグランドマスターの提案を指せるようになってきている中で、比較的勉強するのに必要な時間が変わらないものに力を注いできたっていうのが大きいのかなと。

とか言いつつ、オープニングに関して全くやっていなかったわけではなくて。特に同年代、あるいはちょっと上とか下とかの世代はやっぱりみんなオープニングを勉強していて、それをしっかり指していて、メインのラインで、それはもうGMに近いような感じの序盤をやってくる。で、それに正面から結構ぶつかってたんですね。それこそなんていうのか、若い頃はマイナーな定跡を指してそれを回避すればたぶんもっとポイントは取れていたと思います。でも、敢えてそこでぶつかっていたという。

メインラインでの、あるいは自分は勉強しないけれど相手が勉強してるから、そこから序盤を学び取るっていうこともしていますし、あとは、相手がすごく研究し

ているからといってそれを避けて本当はちょっと悪いけれど相手があんまり知らなさそうのを指そうといった避けることをあんまりしなかったんです。今は結構序盤の研究はしてるんですけど、定跡を選んだり試合で定跡を指すときに逃げずにまっすぐ進んでいけるっていうのがあります。それもやっぱり大きいかな、と。

結構チェスのコーチがオープニングじゃなくてミドルゲームとエンドゲームをやれって言ったり、ポジショナルプレーをやれとか言ったりするんですけど。でも、定跡もなんやかんやで「定跡を勉強するな！」って言われているのに、でも「メインラインを指せ！」っていう感じで、チェスのコーチって結構こんな感じじゃないですか。でも基本的にはやっぱり定跡とミドルゲーム中心にやりますし、なんていうのか、エンドゲームは放ったらかしにするしといった感じで、なんならたぶんコーチ自身も定跡ばかりやってたんですよ、本当は。だから、そういう意味では珍しく、コーチの言った通りのことをやって努力をしてきたから、20年経った今、ピークなんか過ぎているはずなのにピークみたいな感じになっているとか。えっと、まあコーチの言うことを聞くことにもメリットはあるって感じですかね。

優等生タイプですね

まあ、優等生というと、そうですかね。それこそ私が初めてオリ

ンピアードに出たのが2002年、20年前ですかね。日本代表にもなっちゃったし、たぶん中学3年の頃には大体の大会のリストトップか次点になってたんですよ。じゃあそこからどうすればいいのかって感じでやっていると、なんていうのか、あんまり序盤を勉強して全勝しようっていう感じにはなかったたんですよ。あとは、その頃自分より強い相手とあまり試合をする機会がなかったっていうのもあって、尚且つ日本という僻地なので、対戦する機会もなければ今のようにインターネットで情報が氾濫しているわけでもなかったの、学べるリソースも少なかったたんですよ。であれば、その間に色々やらせないといけないこと、どこを伸ばせばいいかなって考えて、これが欲しいあれが欲しいといったことを考えました。

当時は本がメインだったので、かろうじて本をAmazonで買うといった感じで。当時はバイト代全部Amazonでチェスの本買うのにつぎ込んだり、バイト代でオリンピアード行ったりとか。本を中心にやっていたのですが、本当はたぶんグランドマスターのコーチとか名のあるコーチとかに学べば一番いいと思うんですけど、実際それができて人ってあんまりいなくて。じゃあどうすればいいかっていうと自分の中だとたぶん一番ドヴォレツキーの本とアーガルドの本とかをその頃は読んでやっていました。

あとポジショナルプレーとかエ

ンドゲームとかストラテジーとか、全体的なテクニックとかですかね。勉強するにあたって掴みどころがないようなところを独学で本をベースにやって。決して効率のいいトレーニングではなかったと思うんですけど。当時あまり日本で強いプレイヤーもいなくて、学ぶリソースもなかったけど、ひたすら時間だけあって。その時間を勉強するのに時間が必要な要素にあてるといったトレーニングをしていましたね。

今はそんな必要は全然なくて、もうオンラインにいくらでもリソースはあるのもっと早く学べるんですよ。逆に今情報が多くなりすぎて、どこからどう手を付ければいいのかみたいな状況になっていると思うんですけど、それも昔自分が本当はあれが欲しいとか本当はこれが欲しいっていうのが今頃になって来たたんですよ、オンラインで。そういう意味では、それこそ20年前とかに「本当はこれが欲しいけど、ないからこれとこれで代用しよう」みたいな感じで取捨選択をやっていたのが今だと簡単に見つかって、色々あって。

自分が当時重点的にやっていた内容、ストラテジーとかポジショナルプレーとかを短期間で学べるようなリソースもあるんですけど、そこら辺の情報整理、「何が欲しいか」というのを考えていた結果、今情報が氾濫して何をやらばいいかわからなくなるような世の中で自分は初めから何が欲しい



いかを整理できていて、一直線に手を出せる。結果的に今効率的に勉強できているのかなって。

なので、一つは勉強するのに比較的時間がかかるものを中心に今までやってきたことが下積みになっていること。これがあるからあまり実力が劣化しない。それと、本当に欲しいものの情報整理が当時できていたから、今それらに手が出せるようになってブレずに勉強できているからですかね。

今の若手プレイヤーのように何でもかんでも伸びるといった感じのことは決してないです。今若いプレイヤーは逆に色々しすぎて、まあ、色々できるので色々やっちゃってもいいと思いますし、逆にそれこそ何をやっても伸びるような年齢はあるのでその強みを生かしてどんどんとりあえずやってい

けばいいと思います。何かしら努力すればそれが身についてくるっていうのはあると思うので。

まさに上達の歴史大公開ですね

まあ、私はオープニングをそこまでやらずに一般的なコーチが言うようなことを中心にやってきた珍しい例ですね。

オープニングはそこまでやらずにミドルゲーム中心に、あるいはエンドゲームやテクニックやら、ストラテジーをやってきた結構色濃く見えているのがたぶん私とTuさんぐらいだけじゃないかなと思います。あとはそれぞれ独自のアプローチはあると思うんですけど、やっぱりオープニングを真面目に勉強して、なんかすごいメインライン中心で強いグランドマスターがこう指してるからこう指そうみたいな感じで勉強をしているプレイヤーが多いですかね。

私とかTuさんとかは逆に「ポジショナルプレーとは何か？」という感じで、自分で噛み砕いてそれを実現しようとした結果、ちょっとあんまりトップが指さないような感じになっているというか、なんか独特だなみたいな感じで。コーチの言う正統派の努力をした結果なんか全然正統派じゃないような感じがする、違うっていうことになっていて。自分で噛み砕いてGMの指した手っていうのをそのままコピーしていないからそんな感じになったりするんですけど。

最後に、南條さんを倒すにはどうすればいいのでしょうか。花粉の量を増やせばいいのはわかりましたが、それ以外にどうしたらいいのでしょうか？

その話で言うと 20年ぐらい前、自分が他の人よりレート100以上上で全勝しないとレートが落ちるみたいな時期は「猫アレルギーだから直前に猫を撫でさせる」っていう感じのことを言っていました。

真面目に言うなら、結構弱点は多くて。一つはやっぱり先ほどの試合のベストゲーム（前号に掲載）とかもそうですが、基本的には全部勝って当たり前の時代があったから、とりあえず全試合勝ちに行くっていうのがあります。尚且つ、結構自分の限界を要求して当然みたいな指し回しをすることが多いです。とにかく防御をひたすら固めているところに全力で突っ込んでくるみたいなことはあんまりしないと思うんですけど、そ

れでも私は全力で突っ込んできて、当然のごとく勝ちを狙ってくるし、そのために無茶をする。なので、私に勝つために自分から何か前に出る必要はないんですよ。チャンスが来ればそれを利用して逆にカウンターを入れればいいし。そのままチェスで上回られたらそのときは仕方ないなという感じで諦める。

実際のところ、自分のスタイルでそのまま正面から突っ込んだりぶつかり合うよりは、防御でひたすら固めてって感じで、とにかく勝ちを狙いに行くという習性を逆に利用することですかね。

防御を固めるっていうのはすごくプラグマティックな選択肢ですが、それを実現しているプレイヤーは実際にいまして。まあ、小島くんですよ。結構小島くんが防御寄りになっているっていうのは南條相手に勝つのに一番効率的なのはこれだからっていうのがあると思います。どうせ勝ちにくるっていうのはわかっているのだから、無理に自分から手を作る必要はないんですよ。

でもそうすると逆にこっちがドロでいいときに困るといえば困るんですよ。今年の全日本選手権だと8ラウンドで小島くんが0.5ポイント下だったんですよ。で、勝たないと優勝のチャンスが完全に消えてしまうといった状況で、手札がなかったというか。スタイル上そんなに無茶して勝ちに行くっていう感じでもないのに、そういった状況に自分が陥ると逆

に不利になるっていうこともありますかね。

あと他に、全体的に時間のかかることを中心にまんべんなく伸ばしてきているので基本的にはオールラウンダーなんですよ。それこそ序盤まで含めればたぶん日本で唯一のオールラウンダーが私なんですよ。ちゃんとアタックもするしサクリファイスもするし、守るし、エンドゲームに向けて微差を拾い続けて、テクニカルな勝ち方も目指すし、みたいな。何でもかんでもやるんですけど、逆にいえばオールラウンダーであるということは器用貧乏でもあるので。

そのスタイルを作り上げるために、オープニングに関しても相手が調べているからその相手の得意なところに突っ込んでそれで勉強しようといった感じで、結構相手の全力に正面からぶつかることが多いんですよ。自分の実力を上げるためになんですけど。なので、南條が自分の強み、対戦相手の一番強いところに正面から突っ込んでくるから、何でもかんでもできるけどその強み一点で上回ることができれば私が不利になるんですね。

だからその強い長所を鍛え上げて勝てばいいというのがもう一つですかね。私が負けてる試合がいくつかあると思うんですけど、どうしても南條に勝ちたいっていう状況になるとどうなるかっていうと、苦手そうな局面とか定跡とかこういう感じのスタイルだからこ

れ選ぼうみたいな感じになると思います。積極的に相手の強み以外の部分を狙ってくる。

でもこれは有利に勝つ方法ではあるんですけど、ちょっと受け身で、必ずしもうまくいくわけではないですよ。なので、三つ目の方法として、私が特に若い人たちに推奨するのは、本当になんでもいいから自分の強みを負けないようにすること。尚且つ、自分がその強みを生かせるような立ち回りをする。だから、基本的に南條が正面から強みに突っ込んでくるのを待つのではなく、引き込むといった指し方ができれば、勝てますよね、私はただの器用貧乏ですから。

総合力を求められる局面が必ずしも出てくるわけではないので、自分の強みは何かっていうのと自分がどういうチェスを指したいかっていうのを考えて、その強みがとにかく活かせるような感じで指していけるような特化型になるっていうのが一番いいんじゃないかなと思います。自分の武器を活かせることが一番強くなる近道かな、と。

貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

全日本女子 & シニアチェス選手権 2024



Tournament Report

大会レポート

特集：

全日本女子チェス選手権2024

全日本シニアチェス選手権2024

全日本女子 & シニアチェス選手権 2024



2024年8月17日と18日の2日間で全日本女子チェス選手権2024と全日本シニアチェス選手権2024が同時開催されました。（場所：品川区総合区民会館『きゅりあん』）どちらも6Rスイス式、持ち時間45分+30秒/手の国内公式戦です。

女子、シニアとも熱戦が繰り広げられました。（氏名は敬称略）

女子選手権の5Rでは4Rまで無敗の坂井あづみと0.5ポイント差で追

いかける Bansi Prathima, Muthyala が直接対決、Muthyalaが勝ち逆転。

最終ラウンドでは坂井が勝ち、Muthyalaはドロー、両者5ポイントとなり、タイブレーク差でMuthyalaが優勝。なお、日本チェス国籍を持つ坂井が全日本女子チャンピオン2024となり、自身3度目の称号に輝きました。

一方、シニア選手権の最終ラウンドは、5Rまでで4.5ポイント獲得の

義之岳史と上谷敏章の直接対決かと思いきや、既にR4で対決済みの為、小山信行（4ポイント）vs上谷、小笠誠一（3ポイント）vs義之となり、どちらの試合もドロー、タイブレークにより義之が全日本シニアチャンピオン2024となり、2年ぶりにタイトルを奪還しました。入賞者の皆さま、おめでとうございます!!

全日本女子チェス選手権2024

1位	Bansi Prathima, Muthyala	5.0/6p
2位	WCM 坂井あづみ	5.0
3位	三津山六花	4.5
4位	柿島陽奏	4.5
5位	WCM 小島なつみ	4.0

U18

1位	三津山六花	4.5
2位	山田美沙希	3.5
3位	井上聡美	2.5

U12

1位	菊池紗弥	2.5
2位	片山詩歩ユラ	2.0
3位	Solanki Shambhavi	2.0

全日本シニアチェス選手権2024

1位	義之岳史	5.0/6p
2位	上谷敏章	5.0
3位	小山信行	3.5
4位	小笠誠一	3.5
5位	Bhatia Praveen	3.5

O65

1位	小山信行	4.5
2位	小笠誠一	3.5
3位	神田大吾	3.5



全日本女子チェス選手権2024優勝者自戦記 Japan Women's Chess Championship 2024



女子優勝者

Bansi Prathima, Muthyala

Winning the Japan Women's Chess Championship 2024 was a remarkable experience. It was a true testament to the strength and skill of all the participants. Every competitor brought their best game to the board, making it a fiercely contested tournament. I commend the organizers for conducting the event smoothly and providing us with the perfect platform to showcase our abilities.

Among the many memorable games I played, two stand out the most for me—one in Round 4 and another in the match against WCM Azumi Sakai-san, the reigning champion of the Japan Women's Chess Championship 2023, in Round 5.

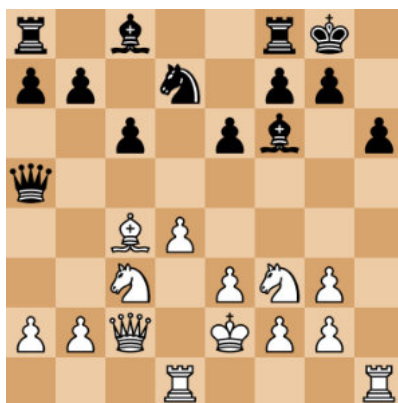
In Round 4, the game held a special place in my heart, not just because of the victory but because of the unexpected turn it took and the bold decisions I had to make under pressure.

Coming into this game, I was eager to prove myself after a challenging draw the previous day.

As White, I had prepared extensively for Kojima-san's typical Dutch Defense. However, to my surprise, she opted for the Queen's Gambit Declined variation. This unexpected choice shifted my focus, and I faced new challenges. The first critical moment came early in the game, on move 8. Bg3 Nxg3 happened. It was a simple exchange, but it opened up my h-file—a detail I hadn't fully appreciated at the time.

Realizing the potential of the open h-file, my entire focus shifted to breaking through on the kingside. The game's turning point came on move 14 when I played the unconventional move Ke2.

R4 Bansi Prathima, Muthyala –
Kojima, Natsumi



It was a risky choice, leaving my king uncastled in the center. Still, I saw an opportunity to sacrifice my rook to the h6-pawn if Kojima-san's e-pawn ever moved. This would allow Qc2 to check on g6, taking advantage of my bishop pinning her f7-pawn. However, to execute this plan, I needed to double my rooks on the h-file quickly, so I gambled on this out-of-the-box move, which led to a win. This game taught me a valuable lesson about the importance of adaptability and the willingness to take calculated risks.

Another game that left a strong impression on me was against WCM Azumi Sakai-san. Playing Black against such a strong opponent was a challenge I relished.

The most intriguing moment of this game came to its conclusion: a combination of pins, checks, and forks culminated in one of the most satisfying victories I've experienced.

On move 11, after Azumi-san made a small opening error by castling with 0-0, I played Bxh2+, gaining a pawn and opening up the h-file.

R5 Sakai, Azumi –
Bansi Prathima, Muthyala



I knew I needed to be cautious, so I concentrated on maintaining as many pieces on the board as possible, only exchanging essential ones. My primary focus became keeping my queenside intact, as I had a weak a5-pawn and a vulnerable square on b6. My reasoning was simple: I would lose the firepower needed to launch a decisive attack on the king if I exchanged too many pieces. My bishops remained on the board, both laser-focused on the white king.

After navigating a tricky defense from Azumi-san, the critical moment arrived on move 27 with Qe2 Nf4+.



This move showcased the power of coordination in chess:

- My queen pinned the g3-pawn.
- My Re8 pinned the e3-pawn.
- My Nf4 delivered a fork to Qe2.

全日本シニアチェス選手権2024優勝者自戦記 Japan Senior Chess Championship 2024



シニア優勝者
義之岳史

The king was trapped with no viable moves, leading to Azumi-san's resignation. The game was over at that point, and the complexity of that final move was a chess player's dream.

These games taught me invaluable lessons about adaptability, risk-taking, and the intricate beauty of chess. Whether it was the calculated gamble in Round 4 or the precise coordination in my match against Azumi Sakai-san, each move reflected the delicate balance between strategy and intuition that makes chess captivating.

I hope my experiences provide some insight into the excitement and challenges of competitive chess. It was an honor to compete in this tournament, and I look forward to continuing to push the boundaries of this incredible game. Thank you for your continued support, and I am eager for the next opportunity to return to the board.

ここ一年弱チェスから遠ざかっており、この大会への参加は二年ぶりです。実はチェスはやめるつもりで、この間、囲碁をやっていました。チェスとはまた違った面白く奥深いゲームにすぐに熱中するようになり、短期間でアマ三段の認定戦で勝ち越せるまでに上達しました。しかし、将棋もそうですが、どこまで行ってもアマチュアにはアマチュア向けの競技環境しか用意されていないことが不満ではありました。十分な持ち時間と日程で、実力に係わらず皆が同じレギュレーションで競い合うチェスの競技環境の得難さに改めて気づかされました。他にも囲碁をすることで思い出したことがあります。それは基礎的なところから謙虚に学ぶ姿勢の大切さです。

やめるつもりだったチェスですが、トーナメントの緊張感が恋しくなったのと共に、謙虚に学び直し積み上げるところからまた始めてみようと思うようになりました。

(一日目)

一局目は白番で勝ち。二局目は黒番。

Bhatia, Praveen
Gishi, Takeshi

Japan Senior Chess Championship
2024(2)

1.Nf3 c5 2.d4 cxd4 3.Nxd4 d5
4.c4 e5 5.Nf3 d4 6.e3 Nc6 7.exd4 e4
8.Ne5 Qxd4 9.Nxc6 Qxd1+
10.Kxd1 bxc6 11.Nc3 Bf5 12.Be3
Nf6 13.h3 h5 14.a3 Bd6



3...d5の段階でこの形はどうやっても黒がいいだろうと思い、プレパレーションはたった3手で打ち切っていました。しかし、実際にはそんなに簡単ではありません。このようなクイーンレスのゲームは構想力の勝負ですが、本譜の黒は漫然と手を進めているだけで、全くもって良さがありません。改善案としては、11.Nc3 f5 12.Be3 Nf6 13.h3 Bd6 などが考えられます。ピシヨップをd6から活用するつもりなら、このような手順が自然で理に適っていました。

二転三転した末、最終的には勝ちを拾ったゲームでしたが、途中必敗の形もあり、反省点ばかりのゲームでした。

三局目は白番で勝ち。一日目は三連勝で終わることができました。

(二日目)

久々のハードな大会だったため一睡もできず、疲労が残ったまま二日目を迎えました。それが結果にも悪影響を与えたかもしれません。大会中に十分な睡眠が取れないことがあるのは大きな悩みで、ここをクリアしないと長丁場の大会で好成績を得るのは難しいところです。

四局目は黒番で全勝同士の対決。優勝の行方を左右する大切な一戦でしたが、不慣れな序盤のせいか、不眠のせいか、序盤早々に、手順前後を犯しておかしなことになってしまいました。

Uetani, Toshiaki

Gishi, Takeshi

Japan Senior Chess Championship
2024(4)

1.e4 c5 2.Nf3 e6 3.d4 cxd4 4.Nxd4
Nc6 5.Nb5 d6 6.Bf4 e5 7.Be3 Be7
8.Nc3 a6? 9.Na3 Nf6 10.Nc4 b5
11.Nb6 Rb8 12.Nxc8 Qxc8 13.f3
Na5 14.Bd3 Nc4 15.Bxc4 Qxc4
16.Qe2 Qxe2 17.Kxe2

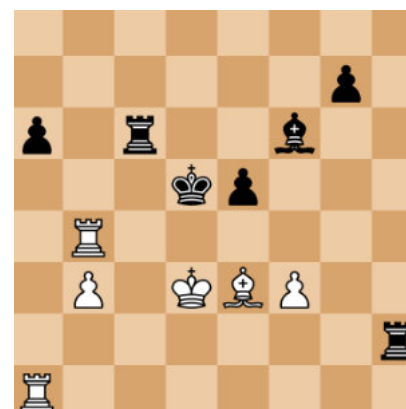


8...a6? では先に8...Nf6で何の問題もないところです。実はここでは白に9.Nd5! axb5 10.Bb6 Qd7 11.Nc7+ Kf8 12.Nxa8 という決め手がありました。本譜でもナイトをc4の好点に展開されて苦しいことには変わりはありませんが、エクスチェンジダウンよりははるかにましです。なんとか勝負できる形になり、二局目同様クイーンレスのゲームとなりました。進んで下図。



26.a4 bxa4 27.Ra5 Rh5! 28.Rxa4
29.Rxh2

白は積極的に打開しにきましたが、27...Rh5が好手で白は容易にポーンを取り返すことができません。例えば28.h3とすると、28...Rh4とされa5のルークが非常に窮屈な状態となります。このような事情から本譜、白はあっさりhファイルを見捨てましたが、これでは1ポーンアップで黒がはっきり有利です。さらに進んで右上図。



39...Ke6?

これが大悪手で、39...e4+の一手でした。変化はいくつかありますが、一例は、40.fxe4+ Ke6 41.Bd4 Rh3+ 42.Kd2 Bg5+ 43.Kd1 Be3! 43.Bxe3 Rh1+でエクスチェンジアップ。やり損ねましたが、それでもまだ黒に負けはない状況で、最低限の0.5ポイントを取ることはできました。

五局目は白番で勝ち。白番はどのゲームも危なげない内容で勝ち切ることができました。

最終局はあまりにひどいゲームで、簡単な決め手の見逃しやブランダーもあり、途中は必敗の形でしたが、執念だけでドローを取れました。最終的には競合も同ポイントだったため、タイブレークで幸運にも優勝できましたが、反省点ばかりが残る大会となってしまいました。しかし、課題が見つかるのは良いことだと思っています。今後は体調面の不安を解消して、より大きな大会でも好成績を収めたいと思っています。

普段の練習を 本番と同じ駒、同じ盤で





モダン・スタントン 96mm ヘビー



プラスチック製
駒のみ

¥3,980



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 



オフィシャル・スタントン 95mm



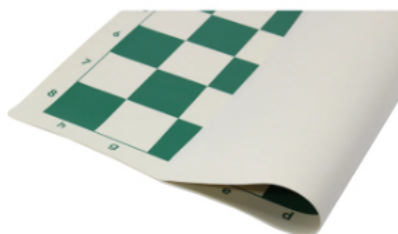
木製
駒のみ

¥12,800





Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

トーナメント 51cm 57mm



ビニール製
盤のみ

¥2,680



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

モダン・トーナメント 44cm ヘビー



プラスチック製
盤と駒のセット

¥4,980

Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

他にもたくさんのチェス用品を取り揃えております
チェス用品のご購入は



CHESS JAPAN
GAME AND ART

Yahoo!ショップ：<https://store.shopping.yahoo.co.jp/chessjapan/>

公式HP：<https://www.chessjapan.com/>

※価格は掲載時点のものです。



Chess Summer School 2024

原島もも

8月10日(土)から12日(月祝)の3日間、Chess Center UENOで小学生を対象としたグループレッスン Chess Summer School 2024を行いました。

初日が初級、中日は中級、最終日は上級と3つのクラスに分かれ、子どもたちは希望するレベルを選んで講義を受けることができます。「本気でチェスが強くなりたい子どもたち集まれ!」というキャッチフレーズの元、山田弘平先生の指導により、同年代の仲間と楽しく学ぶ姿が見られました。朝から一日中チェスに浸る。長時間に及ぶ授業内容なので、開催前

は子どもたちが講義に集中できるか心配でした。ところが講義がスタートすると、保護者からも驚きの声上がるほど集中し、子どもたちは競い合うようにタクティクスを解いていました。語りかけるような口調で進行する山田先生のおかげでしょうか。全員が積極的に手を上げて答えていたのが印象的でした。

また見学する保護者からも質問が上がり、親子ともども濃密なチェスの学びの時間が持てたのではないかと思います。

棋譜を書いたことがない子もいる初級から、カパブランカの名前を知っている子がいる上級まで。幅広いレベルの小学生が集まってくれましたが、共通するのはチェ

スが大好きだということ。講義が終わった後はブリッツ大会で大いに盛り上がりました。

一日を通して対戦や講義に真剣に打ち込んでくれた子どもたちですが、それぞれのクラスで山田先生によるMVPが選ばれ、トロ

フィーとして「ティラノサウルスのティラ山さん」が贈られました。



←ティラノサウルスのティラ山さん

終わる頃にはすっかり仲良しになった仲間達が、これからも大会などで再会し、互いが成長する姿に刺激を受ける関係になってくれたら嬉しく思います。



(左) たくさん子どもたちが参加してくれました!

(中) 山田先生に選ばれた MVP

(右) 皆さん積極的に発言していました!

チェス大会 【文】上杉賀子 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子（上杉 晋作・2007 年高校 1 年生で全日本史上最年少チャンピオン）が 2009 年チェス国籍日本の最年少 FIDE マスターとなり 2010 年全米高校選手権で優勝するまで（さらにアメリカの Senior Master の資格となる USCF レート 2400 の壁を超えるまで）参戦した、アメリカの全ての公式戦、約 180 大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から 1 年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレイヤーとして出陣です。

NO.78-79 第 33 回イースタン・オープン/ イースタン・オープンブリッツ

2006 年 12 月 27 日～ 30 日
晋作(15歳)の結果: 5.0P/8Games
レーティング 2166 → 2178
大会詳細: [USCF サイトより](#)

晋作の対戦でハイライトは初戦、GM Stripunsky と一番ボードで。中盤まではギャラリーが「ひょっとして」という感じでしたが最後力尽きました。それから 8 年生全米チャンプと。向こうがキャリアも実力も格上ですが引分けることができました。最終戦はバージニアの州チャンプと。かなりのギャラリーに見守られながら勝ちきりました。知り合いが沢山いて楽しい大会でした。久しぶりに会った Fabiano は少し背も高くなっていて、GM たちに負けなしは圧巻でした。

同じ時期、近くのホテルでおこなわれていた Pan American の大学生大会も少しのぞいてきました。UMBC 主催でチェスチーム監督のドクターが Eastern も見に来ていて「見においで」といって

くれたので。ドクターは Eastern での晋作の出場レート、結果もチェックしてくれていました。

2006 年 12 月 29 日
晋作(15歳)の結果: 4.0P/10Games
大会詳細: [USCF サイトより](#)

29 日夜の Blitz トーナメント、初戦で GM Ehlvest と。一戦目はなんと引分けました。GM Ehlvest とは大会でよく一緒になるので顔見知りです。Blitz の結果はまあこんなものでしょう。毎年、ローカルの友達とのこの Blitz 戦を楽しみにしています。

長男の方も大学の前期が終わりました。全米各地、世界各国の「数学オリンピック代表」たちも集まっているようですが一応トップクラスの成績を維持しています。大学入って始めての前期の成績でオール A をとりました。CS 専攻ばかりを集めた精鋭 30 人ほどの数学のクラスで最初のテストでミスったくらいであとは上位のよう

です。勉強の量と質はハンパじゃなくノーベル賞、世界的に有名な博士等からの講義も受けかなり刺激の多い日々ようです。

ほとんど徹夜の毎日で、ハイスクール時代とちがいスポーツする時間はないようですがいろんなビジネス関係の協会にも属したり、ギターを弾いたり、パーティに行ったり、沢山の友人達に囲まれて寮生活を楽しんでいるようです。入学前はコンピューターサイエンスで学士、修士はビジネスでと思っていたようですが、今は HCI (Human Computer Interaction) で修士をと考え始めており、まだ大学に入ってから 4 ヶ月なのに、後期の科目選択ももうそれを見据えているようです。私が学生の頃とは意識が全然違います。長男は冬休みに親不知を抜きました。全身麻酔で 4 本一度にです。予防注射も何本も一度にする国ですからしかたないでしょうがそれにしても一本抜くだけでも大変そうなのに 4 本ですからね。想像以上の大手術(?) でした。麻酔でふらふらになり私が身体を支えながらやっとの思いで帰宅しました。長男が細身の身体でよかったです(!?) 全身麻酔は日本ではあまりしないようで、こういう場合は一泊二日の入院ですとも聞きますが、アメリカで生きていくためにはこういうことにも慣れる体力が必要なのでしょう。



GM Stripunsky と対戦する晋作



初めての相手と、気軽に指せる楽しみ

Chess Center UENO

各 部
入 場 料 500円

営 業
時 間

木 曜 日
1部 17:00
▼
22:00

土 曜 日
1部 10:00
▼
14:00

日 曜 日
1部 10:00
▼
14:00
2部 14:00
▼
18:00

チケットご購入
(Peatix)



※最終入場は各営業日の終了30分前です。

チェスセンター上野

東京都台東区北上野2-11-3シルバーフラット101

Access :

東京メトロ日比谷線 入谷駅 徒歩8分
東京メトロ銀座線 稲荷町駅 徒歩9分
JR/東京メトロ 上野駅 徒歩11分

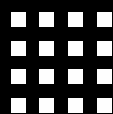
公式HP : [リンク](#)

お問い合わせ : info.chesscenterueno@gmail.com



1人でもOK

スタッフがお相手します！



各部最大16人

みんなで一緒に！



保護者の付き添いOK

未成年1人につき1人まで無料

所在地
(Google Map)



編集部

木下奏子 神田大吾
山内美加 真鍋浩
鈴木秀聡 桑田晋
森谷真理子 (順不同)

発行

一般社団法人 日本チェス連盟

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。
ご意見・ご感想などは japanchess.editor@gmail.com までお寄せください。